

JICA海外協力隊帰国報告



氏名：高橋佳太郎
隊次：2023-2次隊
派遣期間：2023年11月～2025年10月
派遣国：チリ共和国
職種：理学療法士

1

活動概要

チリ南部テムコ市の通所リハセンターで理学療法士として活動し、①地域住民への理学療法提供、②利用者約115名のデータ調査と共有、③予防的介入を目的とした集団リハの推進を行った。データは支援の質向上に活用され、論文化も進行中である。また、障がい者スポーツや日本文化紹介ワークショップを通じて、地域住民に運動・外出機会を提供し、4種の疾患別スペイン語パンフレットも作成・配布した。これらの活動を通じ、地域の保健医療向上と住民の自立支援に寄与し、現地スタッフとの協働で相互理解を深めた。



2

協力隊活動で印象的だった出来事や、成功したこと、もしくは苦勞したこと

配属先利用者を対象として身体機能や生活状況を調査・解析した結果、身体機能は有意に向上していた一方、活動範囲や社会参加には変化が乏しく、課題が明確になった。調査票作成や記録方法の調整には苦勞したが、数値化により現状を客観的に示せたことは大きな成果だった。また、集団リハでは既存のワークショップに体操やアクティビティを導入し参加意欲を高め、「外出のきっかけになった」との声も得られた。この経験を通じ、協働の意義と現地文化に即した工夫の重要性を実感した。

3

今後の活動について

協力隊での活動を通じ、理学療法の知識や技術だけでなく、文化的背景を理解して現地に適応する力が培われた。帰国後は大学院で公衆衛生学を学び、将来は理学療法と公衆衛生を融合させ、国際開発コンサルタントやシンクタンクの立場から、国内外の保健医療プロジェクトに携わりたいと考えている。特に高齢化や慢性疾患対策はチリでの経験とも関連して、世界的に重要な課題である。日本を拠点とし、海外出張ベースで現地に寄り添ったプロジェクト設計・評価に関わることを目指す中で、協力隊で得た現場目線と多文化理解を今後のキャリアに活かしたい。



JICA海外協力隊帰国報告



氏名：吉川大貴
隊次：2023年度2次隊
派遣期間：2023年11月～2025年11月
派遣国：ホンジュラス
職種：理学療法士

1

活動概要

NGOの運営するリハビリテーションセンターが私の配属先でした。近隣住民を中心に、小児から高齢者まで幅広い患者に対して、無料の通院治療を提供していました。私の活動は主に、ここで働く機能訓練士の同僚たちと患者さんのリハビリテーションをおこなうこと、また知識や技術の伝達をおこなうことでした。



2

協力隊活動で印象的だった出来事や、成功したこと、もしくは苦労したこと



特に若者のバイク事故による交通外傷が多くみられました。インフラの未整備や金銭的な問題など、リハビリ以外にも改善すべき課題が多いと感じました。また、日本のような電子カルテや包括的ケアの概念が十分に整っていないため、患者さんの情報を一から聞き取る必要があります。また日本とは生活様式が大きく異なる環境で、患者さん一人ひとりに即したリハビリを行うことには大変苦労しました。

3

今後の活動について

大きな成果を残せたとは言えませんが、協力隊として過ごした2年間は、私にとって「国際協力に携わりたい」と強く思える大きな一歩となりました。今回の活動で得た経験を土台に、現地で感じた課題の解決に向けて、グローバルヘルスを体系的に学びたいと考えています。将来は、グローバルな視点で課題を捉え、ローカルに行動できる国際協力師になりたいと思っています。



JICA海外協力隊帰国報告



氏名：青崎 聖花
隊次：2023年度3次隊
派遣期間：2024年1月～2026年1月
派遣国：ガーナ
職種：保健師

1

活動概要

配属先は保健局母子保健部門であり、要請内容は母子手帳を活用した母子保健サービスの質の向上でした。数ある事業の中でも乳幼児健診に焦点を当て、栄養カウンセリングの強化や母子手帳の適切な使い方を伝えました。スタッフと共に、より意味のある健診の在り方を模索し、試行錯誤を重ねた2年間でした。



2

協力隊活動で印象的だった出来事や、成功したこと、もしくは苦勞したこと

印象的なことは、健診が「保護者が安心できる場」であることの重要性を強く感じ、健診の意義を考えるきっかけとなったことです。多くの課題や文化の違いの中で、思うように伝わらず自信を失うこともありましたが、データを用いて説明することで課題を共有でき、スタッフと同じ方向性を向いて取り組むことができました。



3

今後の活動について

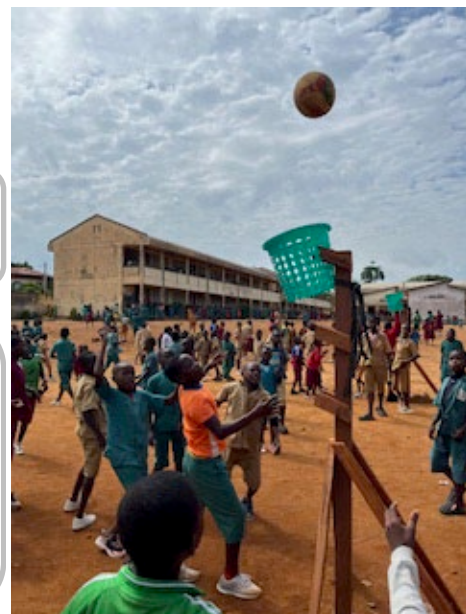
2年間向き合い続けた任地は私にとって大切な場所となりました。また、活動を通して母子保健分野への関心がより一層高まり、将来的にはプロフェッショナルとして現地で活動を行うことが次の目標です。そのために、今後も語学力と専門性の向上に努めていきたいと考えています。



JICA海外協力隊帰国報告



氏名:奥村 忠広
隊次:2023年度 3次隊
派遣期間:2024年 1月~2026年 1月
派遣国:カメルーン
職種:体育



1

活動概要

南部州オセアン県ケリビ市の初等教育事務所に配属。6つの小学校で体育授業に介入。全てのクラスで体育を実施できる仕組みを整備。2年間で延べ500時間以上の授業を担当し、学校体育の土台作りに貢献。現場で獲得した知見を報告書にまとめ、教育省に提出した。

2

協力隊活動で印象的だった出来事や、成功したこと、もしくは苦勞したこと

「物がない」「場所がない」「人がいない」ところからの挑戦だったため、日本での当たり前が通じず必要な資料や用具を一から作成・調達した。隊員自身が手本を示し、体育の重要性を伝え、教員のモチベーションを上げることによって初めて現地の教員を動かすことができた。

3

今後の活動について

JICA駒ヶ根訓練所の運営スタッフとして勤務。カメルーンをはじめとする世界で活躍する後輩隊員の育成に努める。国内のJICA関係機関で経験を積み、現場で隊員を支える立場として再び海外に戻ることを目指す。

